

筑波大学における盗難の実態と防犯対策

リスク工学グループ演習4班
201220607 :三井 慧史
201220594 :木下 尚彦
201220598: 提 達朗
アドバイザー教員:鈴木 勉

2013/3/24

背景

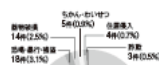
- 大学に警察が立ち入るようになって来年で10年
- 盗難に関する注意喚起の張り紙をよく見かける
- 筑波大生は大学周辺で結構な数の事件に巻き込まれている



筑波大学の防犯の現状への興味

筑波大生の被害も多数!

筑波大生が被害にあった事件数
平成20年10月～平成21年9月



本学周辺地域における事件発生状況
平成20年10月～平成21年9月



出典:セーフティライフ2010

2013/3/24

目的

筑波大学で起こる犯罪の現状、防犯対策を確認



筑波大学の防犯上の問題点を探る



大学での防犯に有効な対策を提案する

2013/3/24

実態調査

- 筑波大学の防犯対策の現状把握と比較のための他大学の状況把握
 - ▶ 統計調査
 - ▶ ヒアリング調査
 - ▶ 現地調査
- 現状改善のための対策の検討
 - ▶ アンケート調査

2013/3/24

統計調査

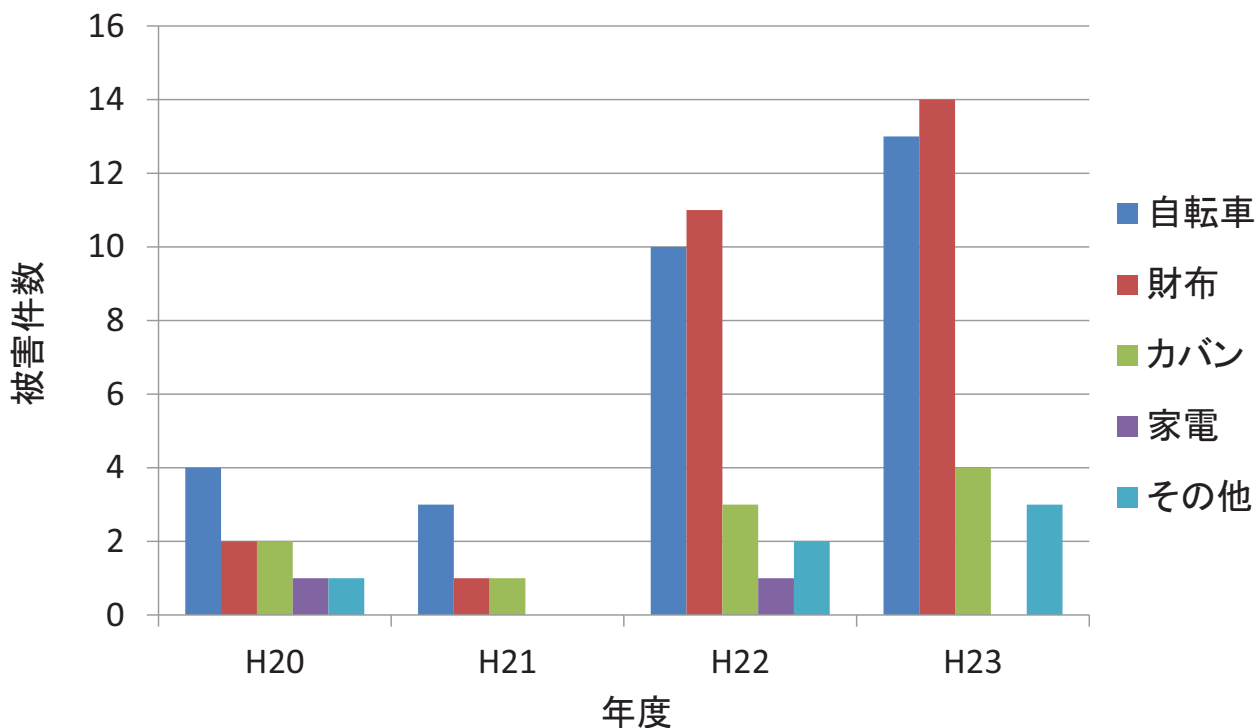


図: 筑波大生の過去の盗難被害状況

2013/3/24

ヒアリング調査 (学生生活課)

■ 盗難等のリスク喚起

- ポスター掲示や立て看板の設置, 教員による注意喚起
- 一年生を対象にフレセミでの注意喚起
- **twinsなどの誰もが見るページを用いた注意喚起は行われていない**
(twinsは学生部の管轄であり, 生活課は使用できない)



■ 監視カメラはどのような場所に設置されているか

- 監視カメラは各支援室が独自に設置している
- 各支援室での設置状況を把握している部署は**おそらく存在しない**

■ 学生が事件に巻き込まれた場合の外部の情報発信

- 警察に警備強化を依頼
- しかし、警察はループの警邏強化が中心で構内には入ってこない

2013/3/24

ヒアリング調査 (警備室)

■ 事件が起きた際の対応



■ 警備する側の視点から見て危ないと感じる箇所

- 筑波大学は基本的に入出りが自由
- 門などはなく“開かれた大学”である
- 学生と一般の人の区別がつきにくい



➔ **完全な防犯をするのは難しい状況**

2013/3/24

ヒアリング調査 (他大学)

質問内容

- Q1 主要な建物の出入口は夜間施錠されているか
- Q2 学生が建物に出入りする際に必要なものはあるか
- Q3 盗難等に対する注意喚起は行われているか
- Q4 大学関係者以外も構内や棟内に入ることは可能か



	国立A	国立B	国立C	私立
Q1	18:30 - 20:00	18:00 - 19:00	17:30 - 20:00	23:00迄
Q2	学生証, カードキー	学生証, カードキー	学生証	なし
Q3	行っている	ポスター, HPに掲示	ポスター, 学内ポータルサイト	掲示板
Q4	可能: 夜間はカードキー	可能: 夜間は閉門	可能: 門には守衛あり	可能

2013/3/24

現地調査 (1/3)

筑波大学

- 構外から構内へ進入可能な出入り口の数は一十数か所存在
- 24時間出入り可能な棟が存在
- 外部から構内へ入る主要な道路付近には警備室が存在



2013/3/24

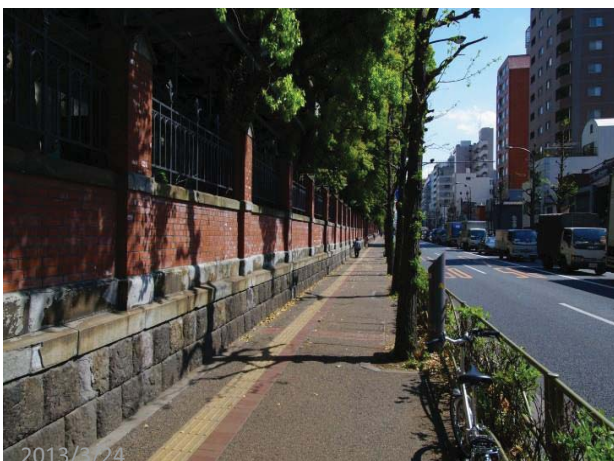
現地調査 (2/3)

国立A

- 門には守衛が居て、外部の人間は身分証の掲示が必要
- 柵が存在し、敷地を囲っている

国立C

- 大学の周囲は壁と柵が存在し門以外からの出入りは困難
- 門の入り口に警備員室が併設されていた
- 建物の入り口は解放されており出入り自由であった



現地調査 (3/3)

国立D

- キャンパスは広いが、構外から進入できる箇所は少ない
- 大学の周囲は壁に覆われていた
- 車両に比べ人は構内に入りやすくなっていた

私立

- 正門には警備室が併設、その他の門でも警備員が警備にあっていた
- 研究棟で各部屋の訪問には許可が必要であった
- 盗難の注意喚起が各棟の入り口で行われていた



アンケート調査

「防犯意識に関するアンケート」

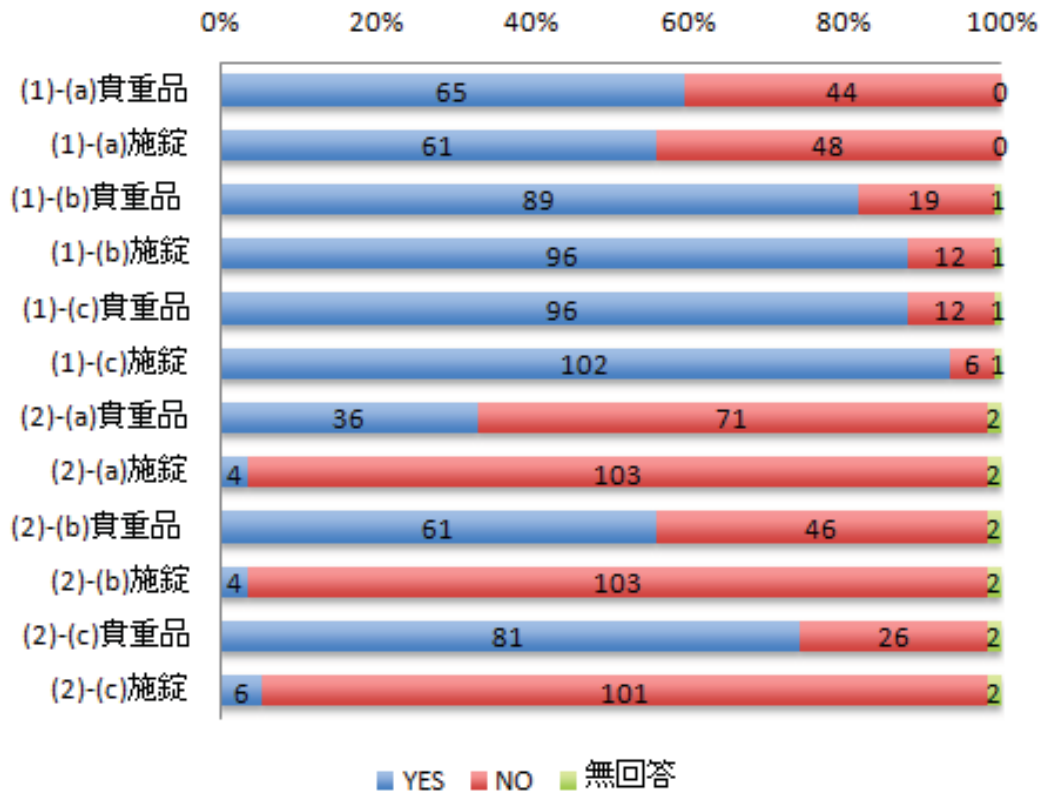
実施期間: 9月7日～9月10日

対象: 総合研究棟B

回収数: 109部 (回収率74%)

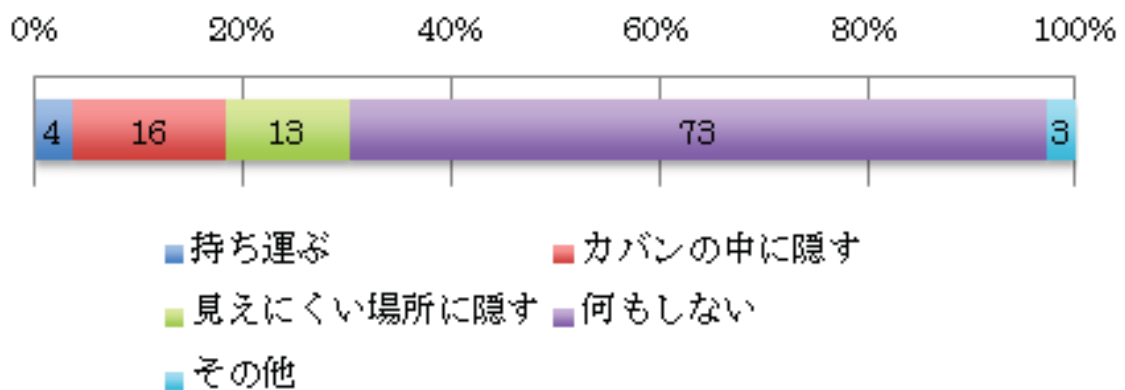
内容: Q1. 退室時の貴重品の扱い及び施錠の有無について
Q2. 退室時の大型の貴重品の扱いについて
Q3. 異なる場所に掲示してある掲示物の認識について
Q4. ポスターの与える印象について
Q5. 防犯カメラの設置について
Q6. デジタルサイネージの情報の認識について
Q7. デジタルサイネージを利用した注意喚起の有効性について

アンケート結果(Q1)



2013/3/24

アンケート結果(Q2)



- 短時間であっても小型の貴重品(財布、携帯など)を持ち出す人は多い
- 一方で、大型の貴重品(ノートPCなど)に関しては、約7割の人が何もしない傾向にある

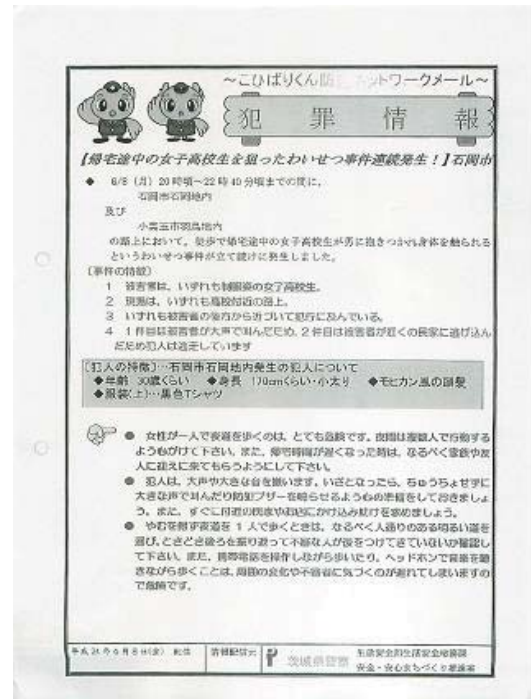
2013/3/24

アンケート結果(Q3)



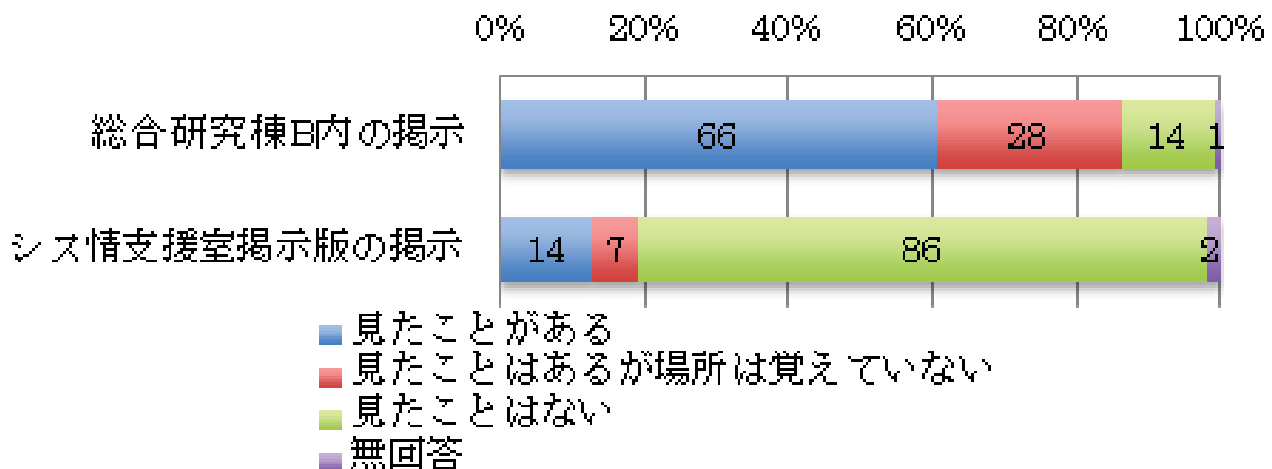
総合研究棟B内に貼ってある掲示物

2013/3/24



シス情支援室掲示板、及び登録者にメールで送付される掲示物

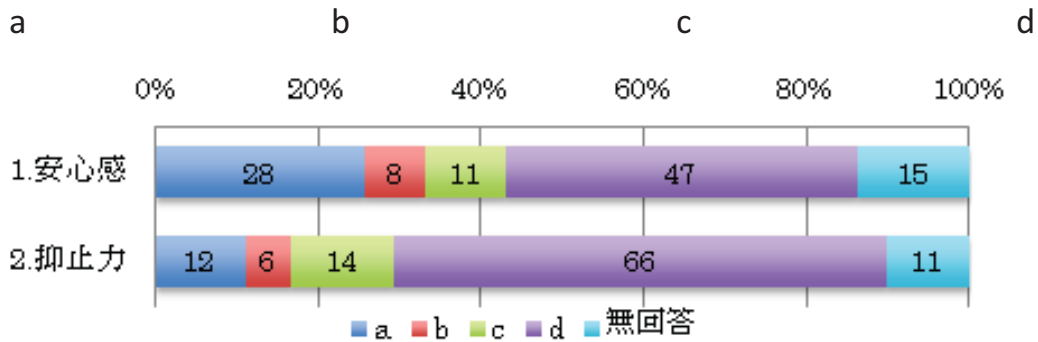
アンケート結果(Q3)



- 普段使用する棟の掲示に関しては、よく目につくため認識率が高い
- 支援室の掲示板とやえど、普段使用しない棟の掲示物の認識率は低い

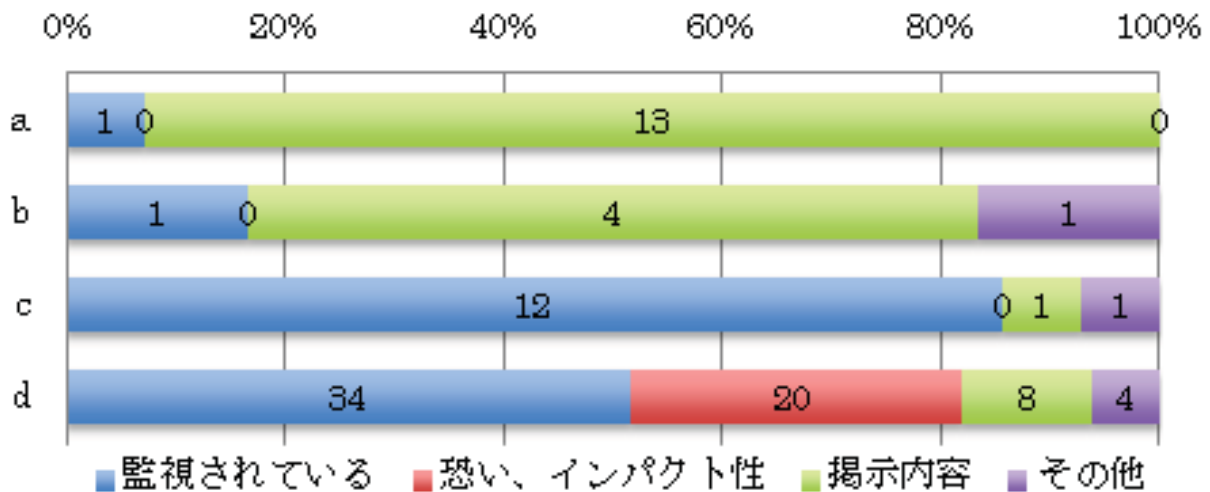
2013/3/24

アンケート結果(Q4)



2013/3/24

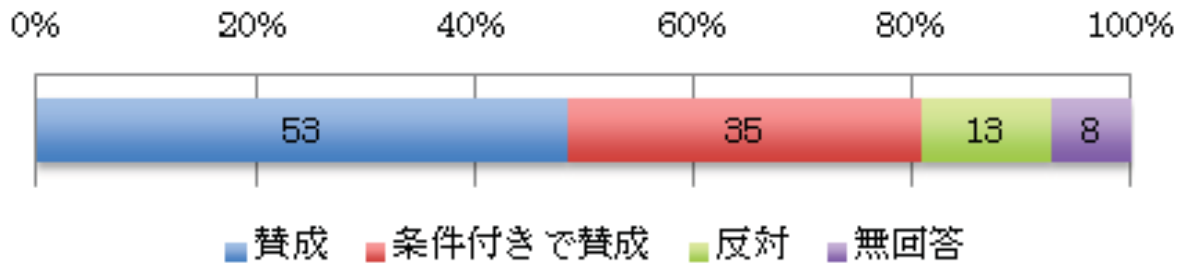
アンケート結果(Q4)



- 具体的な内容が書かれている方が安心感を与えやすい
- 目が描かれている絵は人を利他的に行動させるため防犯に有効である

2013/3/24

アンケート結果(Q5)

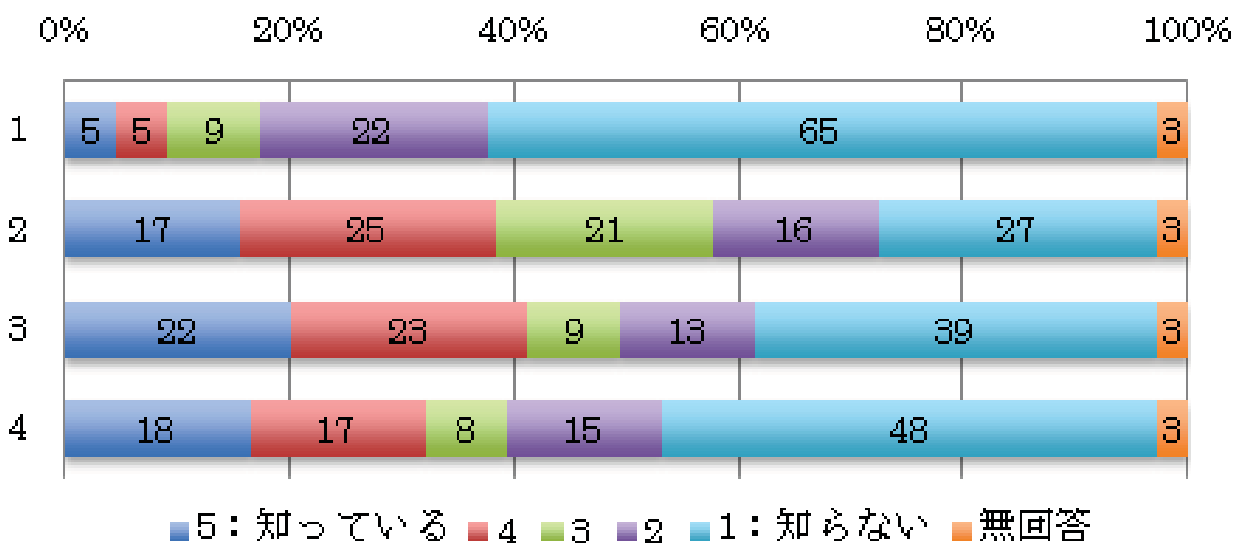


□ 条件付きで賛成を含めると実に8割以上の方が防犯カメラの新規設置に関して賛成である

- もしものときに役立つ
- 犯罪の抑止になる
- 存在だけでも防犯につながる
- 効果があるとは思えない
- 自己管理の意識を高めることを優先すべき
- そこまで犯罪は発生していない

2013/3/24

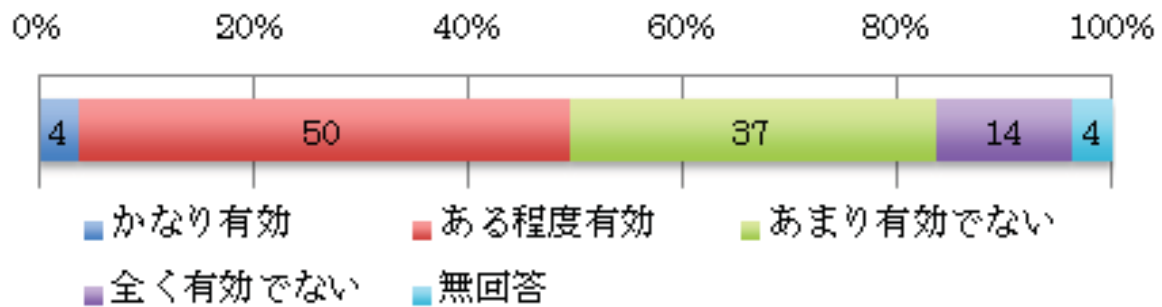
アンケート結果(Q6)



- 全体的な認識率はいまいち
- 専攻による認識率の差はあまりない

2013/3/24

アンケート結果(Q7)



□ 有効性があると考える人と有効性がないと考える人の割合は半々

- 情報を迅速に伝達できる
- 紙の節約になる
- コストがあまりかからない
- 印象に残らない
- 配置が微妙
- そもそも見ない

2013/3/24

アンケート結果

- 持ち運びの難しい貴重品はほとんどの人が対策を取らない
- **目が描かれている**防犯ポスターが防犯対策には効果的である
- **監視カメラ**の設置に関しては、支持者は多い
- デジタルサイネージを利用した注意喚起の有効性に関しては、**否定的な意見**が多く、情報の認識率もさほど高くない

2013/3/24

まとめ(1/2)

- ◆ 筑波大学は開かれたキャンパス
- ◆ 僅かな退席時間での貴重品に対する防犯意識や持ち運びしにくい貴重品への防犯意識は低い

対策が必要

- ◆ 防犯カメラの新規設置
- ◆ デジタルサイネージの利用
- ◆ 防犯ポスターの利用

2013/3/24

23

まとめ(2/2)

	設置コスト	情報伝達コスト	プライバシー	効果
防犯カメラ	×	-	△	○
デジタルサイネージ	×	○	-	△
防犯ポスター	○	△	-	不明

複数の対策を導入すると効率的

2013/3/24

24

結論

- 単一の対策ではなく、複数の対策を組み合わせるとより効率的
- 対策としては、防犯カメラと防犯ポスターが効率的かつ効果的
- ポスターは眼が描かれているものを使用するとより効果的

今後の課題

- アンケート対象の拡大
 - 総合研究棟B以外での調査
 - 使用者の観点からだけでなく管理者の観点からの調査を含める
- 各対策の最適な導入範囲の検討
- より効率的な対策の検討